

中越からの一生使えるプレゼント

「こんにちは。カウンセラーの中越です。〇〇さんはカウンセリングとか受けられるのは、はじめてですか？」

パターン1 「はい。はじめてです」

「じゃあ、サイトや申込時のメールにも書いてあったと思うんですけど、簡単に注意事項を説明していいですかね」

パターン2 「いえ、別のところで受けたことがあります」

「じゃあ、注意事項を他のところで訊いたことがあるかも知れないですけど、簡単に注意事項を説明していいですかね」

パターン1の人もパターン2の人も、「注意事項説明してもいいですかね」というと、99, 99% 「はい」と答えます。

「カウンセリングには守秘義務というのがありますので、今日お話しいただいたことを無断でどこかで話すことは絶対にありませんので、安心してどんなことでも話してくださいね」

「はい」

「それから、こういうことは申込時に書いてなかったかなとか、こういう話すのはちょっと恥ずかしいなと思うことも、もしかしたらあるかも知れないですけども、まあ、難しく考えずに、思い浮かんだことそのまま話してもらおうのが、一番上手くいくと思います」

「はい」

「最後に、予約時間だいたい1時間前後となっておりますので、これだけ絶対に相談しておきたいとか、これだけ質問しておきたいということがありましたら、忘れないよう注意してもらえたらと思います」

「はい」

「じゃあ、さっそくなんですけども、お申し込みのときに書いていただいたのも読ませていただいでるんですけども、今日はどんなことから話していきましょうか？」

=====

あまり難しく考えずに、臨機応変に自分なりにアレンジしてください。

事前の注意事項は、基本的に相談者さんに安心してもらうためのものです。

カウンセリングのテーマや、働く団体によって「こうやって変えた方が、より相談者さんが安心してくれる」。そう思えるのなら、ぜひアレンジしてください。

こういうところも、「来談者中心療法」だと僕は思っています。

※守秘義務の例外、自傷他害の恐れがある場合については、最初のカウンセリングで説明するとビックリする人もいます。

なので、サイトや申し込み案内メールに書いておくといいです。